

は十万偈四十八品。此三本の外に震旦・日本には僅に八十卷・六十卷・四十卷等あり。阿含小乘經・方等・般若の諸大乘經等。大日經は梵本には阿嚩囉訶法乃至五字計をもて三千五百の偈をむすべり。況や余の諸尊の種子・尊形・三摩耶其数をしらず。而に漢土には但纔に六卷・七卷也。涅槃經は双林最後の説、漢土には但四十卷なり。是も梵本へ之多し。此等の諸經は皆釈迦如來の所説の法華經の眷属の修多羅也。此外過去の七仏・千仏・遠遠劫の諸仏の所説、現在十方の諸仏の諸經も、皆法華經の經の一字の眷属也。されば藥王品に仏宿王華菩薩に對して云、(譬えば一切の川流江河の諸水の中に、海為れ第一なるが如く、衆山の中に須弥山為れ第一、衆星の中に月天子最も為れ第一)等云云。妙樂大師積云、「已今當説最為第一」等云云。此經の一字の中に十方法界の一切經を納たり。譬は如意宝珠の一切の財を納め、虚空の万象を含めるが如し。經の一字一代に勝る。故に妙法蓮華の四字も又八万法藏に超過するなり。

妙者、法華經云、(「方便の門を開いて眞実の相を示す」)云云。章安大師積云、(「秘密の奥藏を發く、之を稱して妙と為す」)云云。妙樂大師此文を受けて云、(「發とは開なり」)等云云。妙と申す事は開と云事也。世間に財を積める藏に鑰なければ開事かたし。開ざれば藏の内の財を見ず。華嚴經は仏説給たりしかども、彼經を開く鑰をば、仏彼經に説給はず。阿含・方等・般若・觀經等の四十余年の經經も仏説給たりしかども、彼經經の意をば開き給はず。門を閉てをかせ給たりしかば、人彼經經をさとる者一人もなかりき。たとひさとれりとをもひしも僻見にてありし也。而に仏法華經を説せ給て諸經の藏を開かせ給き。